

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	橋りょう長寿命化対策事業			事業番号	35-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	土木部	古尾谷 栄一	道路整備課	佐野 晃	

計 画 (Plan)

総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	9	快適で暮らしやすいまちづくり	
		施策展開の方向	16	便利で機能的なまちをつくる	
		施策	35	公共施設の効率的な活用と維持管理・保全の推進	
予算事業名	橋りょう維持管理費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	—
関連法令等	道路法、道路法施行令、道路法施行規則				
国・県の計画等	社会資本総合整備計画:既存施設の長寿命化等の推進(防災・安全)		計画期間	平成29年度～令和3年度	
関連個別計画	伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画、地域防災計画		計画期間	平成25年3月～継続	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	市が管理する橋りょうは、今後、建設から50年を経過する高齢橋の割合が急速に増加し、老朽化による架け替え費用が増大することから、従来の「事後保全」から「予防保全」へ管理方法の転換を行います。平成25年3月及び令和2年3月に策定した「伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画」に基づき、予防的修繕等の実施を徹底することにより、修繕・架け替えに係る費用を、効率的な管理を行いコストの縮減を図ります。				
目的 (何をどうしたいのか)	伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、橋りょうの修繕及び耐震化などを計画的に実施し、長寿命化を図ります。				
主な対象 (誰・何を対象に)	予防保全的な修繕を進め、安全で円滑な交通環境へ対応することで、快適で暮らしやすいまちを目指します。震災時に、緊急輸送路などを確保し、市民の安全・安心を推進します。				
事業内容 (手段、手法など)	「橋りょう長寿命化修繕計画」に基づき、緊急輸送路等に位置づけられている橋りょうや、損傷等の状況により対策を優先すべき橋りょうに対し、修繕・耐震化を計画的に実施します。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	調査設計	調査設計	調査設計	調査設計	
	修繕工事	修繕工事実施	修繕工事実施	修繕工事実施	
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	橋りょうの修繕及び耐震化済みの橋りょう数	7橋 (平成28年度)	10橋	13橋	16橋



事業実施 (Do)

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	令和元年度は、橋りょう定期点検の結果を公表するとともに、国の交付金を活用して「橋りょう長寿命化修繕計画」(220橋)を策定します。 併せて、橋りょう長寿命化修繕設計を1橋、橋りょう長寿命化修繕・耐震工事を2橋予定しています。			
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	<input checked="" type="checkbox"/> すべて直接実施 <input type="checkbox"/> 左記以外			
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>	
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>	
	<input type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b>	
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	調査設計	調査設計実施	調査設計実施	
	修繕工事	修繕工事実施	修繕工事実施	
<b>実施した取組の内容</b>	調査設計については、1橋(熊野橋)を実施いたしました。 修繕工事については、3橋(新玉橋、木津根橋、板戸川橋)を実施いたしました。			
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>【現状値】</b>	<b>年度</b>	
			平成30年度	令和元年度
	橋りょうの修繕及び耐震化済みの橋りょう数	7橋 (平成28年度)	9橋	12橋

<b>コスト</b>	<b>年度</b>	平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績				
	<b>事業費合計 (a)</b>		50,831	千円	103,983	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
	<b>内訳</b>	国県支出金 ①	26,367	千円	57,057	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
		地方債 ②	15,400	千円	43,600	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
		その他特財 ③	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
		一般財源 (a)-①-②-③	9,064	千円	3,326	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
	<b>国県支出金の内容</b>		防災・安全社会資本整備交付金(補助率:5.5/10、市4.5/10)											
	<b>その他特財の内容</b>	受益者負担	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				<b>前回の改定時期</b>							
		その他												
	<b>人件費</b>	正規職員	0.32	人	2,723	千円	2.06	人	17,922	千円	0	人	0	千円
		その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)	0.32	人	2,723	千円	2.06	人	17,922	千円	0	人	0	千円
	<b>トータルコスト (a)+(b)</b>		53,554	千円	121,905	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
	<b>単位当たりコスト</b>	対象数	定義	市民	単位	市民	単位	市民	単位	市民	単位	単位		
		対象数	対象数	102416	人	102,248	人							
総事業費 / 対象数			523	円	1,192	円					円			

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	橋りょう修繕・架替えに係る費用の縮減・平準化を図るため、伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画に基づく修繕・耐震詳細設計を1橋実施し、修繕・耐震工事を3橋実施しました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市事業内容等	令和元年度の伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画策定について、県内20市町村(11市、8町、1村)で統一を図り、伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画を策定し、事業を実施しています。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画策定に基づき、平成25年度から令和元年度まで19橋の修繕・耐震詳細設計の実施及び12橋の修繕・耐震工事が完了することができました。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	国の防災・安全交付金を活用し、効率的に事業を実施することができました。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	今後、橋りょうの老朽化に伴う架け替え費用の増大が明らかであることから、国の補助金等を積極的に活用しながら、橋りょうの予防的修繕を継続的に実施することにより、管理コストの縮減と平準化に取り組む必要があります。
令和2年度の取組方針		令和2年度は、「伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画」を公表するとともに、国の補助金を活用して修繕・耐震詳細設計を3橋、修繕・耐震工事を2橋予定しています。		
所管部長による総評		橋りょうは、都市活動や市民生活を支える重要な都市基盤施設であり、健全性を維持し安全を確保することは行政の責務である。一方、多大な費用を要する橋りょうの維持管理費のコスト縮減と平準化は、大きな課題となっています。このような状況を踏まえ、計画的な予防修繕を徹底しコスト縮減を図る「橋りょう長寿命化修繕事業」に、積極的に取り組む必要があります。		